

第 80 回信州上肢外科研究会報告書

2023 年 3 月 25 日土曜日 ホテルブエナビスタ 出席者 42 名

15:00～16:30 ワークショップ *ホテルブエナビスタ 2F レガロにて実施

豚足を用いた腱縫合実習～匠の技を学ぶ～ 座長:宮岡俊輔 先生

ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)様の協力を得て、第 65 回以来 9 年ぶりの腱縫合ハンズオン開催となった。

信州大学整形外科の磯部文洋先生から腱縫合に関するミニレクチャーに続いて、腱縫合実技を行った。内山茂晴先生、松田智先生、林正徳先生、下田寛一先生、中村恒一先生、植村一貴先生、橋本瞬先生、北村陽先生にテーブルインストラクターとなっていただき、豚足を用いた腱縫合トレーニングを行った。整形外科 1 年目の先生から整形外科専門医を取得し手外科を志望する先生まで 18 名の若手整形外科医が参加し匠の技を学んだ。意欲的に学ぼうとする若手の勢いはすさまじく、1 時間半の時間はあっという間に過ぎた。

今後も定期的に若手向けのセミナーを併催して行きたいと考える。



特別講演の前に日本臓器様より製品説明があった。

17:00～18:00 特別講演

こどもの上肢―様々な疾患の診断と治療―

座長:石垣 範雄 先生 講師:千葉こどもとおとなの整形外科 院長 西須 孝 先生

日本整形外科学会教育研修会として認定(1 単位)

専門医資格継続単位 必須分野

[3] 小児整形外科疾患(先天異常, 骨系統疾患を含む, ただし外傷を除く)

[9] 肩甲帯・肩・肘関節疾患

手外科を専門としない小児整形外科医が診療にたずさわる上肢疾患を挙げてみると、感染症(骨髄炎、化膿性関節炎、リンパ節炎)、腫瘍(外骨腫、多発性外骨腫、メタコンドロマトーシス、内軟骨腫、Ollier 病、単発性骨嚢胞、血管腫、腱鞘巨細胞腫、Langerhans 細胞組織球症、白血病、神経芽細胞腫、Gorham 病など)、膠原病(若年性特発性関節炎、混合性結合組織病、皮膚筋炎など)の他に、① 手部:強剛母指、弾発指、先天性握り母指症、屈指症(先天性多発性関節拘縮症、Beals 症候群)、Charcot-Marie-Tooth 病、指節骨癒合症、Microgeodic 病、中手骨短縮症、中節骨短縮症、脊髄空洞症、指噛み・指しゃぶりによる指の腫大、Video Game Induced Knuckle Pad、開花性反応性骨膜炎、Pachydermodactyly、骨系統疾患(Hajdu-Cheney 症候群、濃化異骨症、骨幹端異形成症、軟骨無形成症など)、Kirner 変形、②肘・前腕:肘内障、橈骨頭脱臼(先天性、外傷後、習慣性)、反復性腕尺関節脱臼、Pannar 病、変形治癒骨折(内反肘など)、Fishtail 変形、上腕骨外側顆骨骨折後偽関節、先天性肘関節強直(Apert 症候群、Antley-Bixler 症候群など)、先天性橈尺骨癒合症、離断性骨軟骨炎、肘関節内遊離体、弾発肘、滑膜ひだ障害、生理的尺骨神経脱臼、③肩疾患: Sprengel 変形、開胸術後肩甲胸郭関節拘縮、三角筋拘縮症、外反肩、内反肩、分娩麻痺肩、顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー、進行性骨化性線維異形成症、先天性僧帽筋欠損症、Poland 症候群、屈曲肢異形成症、先天性鎖骨欠損症、先天性鎖骨偽関節症、先天性鎖骨肩甲骨癒合症、上腕骨頭壊死、リトルリーグ肩、肩関節不安定症(習慣性肩関節脱臼、随意性肩関節脱臼)、鎖骨遠位端骨溶解症、小胸筋拘縮症、鎖骨頭蓋異形成症、肩甲胸郭関節滑液包炎などが挙げられます。本講演では、このような疾患の中から時間の許す範囲で、診断と治療について解説したいと思います。

質疑応答

座長:小児の診療にあたり知識を十分持つことが重要であるが、普段の診療で特に気をつけるべき点などがあれば教えてください。

西須先生:まず緊急性がある疾患かどうかを考える。発熱には注意が必要。緊急性がない場合は、わからないこともあるので、その場合はそのまま説明し 1 週間～1 か月後に再診してその間に十分調べる。他で意見を聞いたりすることも、外来で調べることもいとわない。時間をかけて十分調べることが重要である。

共催していただいた日本臓器様、ジョンソンエンドジョンソン様に深謝します。